

## 1

## 株式会社丸井グループ

## 各社の考え方

① 算定を行う  
背景・目的

- G H G排出量をバリューチェーン全体で見える化することで、社会排出の削減を含めた今後の取組みを検討し削減に取り組む。
- Scope 3の算定により、Scope 1・2とともに削減目標を策定。  
【2023年8月にSBTネットゼロ認定を取得】  
中期目標：2030年までにグループ全体のScope1,2の合計を2017年3月期比80%削減、Scope3を35%削減。  
長期目標：2050年までにグループ全体のScope1,2の合計及びScope3を2017年3月期比90%削減し、残余分を炭素除去することでネットゼロ達成
- お客さま等ステークホルダーとともにサプライチェーン全体での共創により取り組んでいく。

② 算定結果の  
活用方法

- カテゴリごとの排出量を算定し、「E S Gデータブック」や「共創経営レポート」等で算定結果と継続的な推移を記載し、対外的に報告。
- C D P等各種アンケートへの回答。

## ③ 算定のメリット

- カテゴリごとの温室効果ガス排出量を定量化することで、排出量が多いプロセスなど、ビジネスモデルの変化に伴う削減ポイントの抽出に役立てることが可能。
- 温室効果ガス排出量を定量的に見える化し、各部署での削減取組みの目標設定に役立てる。
- 自社の温室効果ガス排出状況の開示による透明性の向上。

④ 社内の  
算定体制

- (株)丸井グループのサステナビリティ部が中心となり、グループ各社の関連部署より数値やデータベース等の情報を収集、一部にシナリオを想定するなどして算定。

## 2

## 株式会社丸井グループ

## 各社の考え方

⑤ サプライチェーン  
排出量の削減に  
向けて

- 2021年に発表した中期経営計画では、2019年に策定した「丸井グループビジョン2050」に基づき、サステナビリティとウェルビーイングに関わる目標を「インパクト」として定義し、自社・社会におけるCO2排出削減量100万tをめざしています。
- 今後も、サプライチェーンの温室効果ガス排出量について、継続的に推移を確認し、排出量の削減ポイントを把握しながら取組みを検討。

⑥ サプライチェーン  
排出量算定の  
課題

- 算定範囲が広範囲であることから、算定にかかる負荷が大きいという課題もある。今後は算定の目的・算定結果の活用先を考慮し、排出量の少ないカテゴリ、経年変化の少ないカテゴリなどを見極め算定方法の簡易化を考慮できると考える。
- 金額や重量等をベースとした算定のため、削減の取組みによる削減量の反映が困難。（例：建物の木化を推進するもSCOPE 3の削減量として反映されない等）

⑦ その他  
(任意)

- 当社では、自社活動が関わるサプライチェーン全体の排出量を把握し、今後の削減ポイントを検討していくことを目的としたため、15カテゴリのうち、任意算定範囲も含めた13カテゴリを算定（残りの2カテゴリは、該当する事業なし）。
- 任意算定範囲としては、顧客の移動（カテゴリ9）、アパレル製品の洗濯（カテゴリ11）が対象。
- 提携クレジットカードを発行している施設管理会社等への再生可能エネルギーへの切替を提案。
- 2018年にRE100に加盟し、再生可能エネルギーの調達目標を2025年度70%、2030年度100%とする。新規発電所の自社保有と長期契約を通じて、2030年に全国のマルイ・モディ店舗などの電気を再生可能エネルギー100%にする取組みを推進。

## 3

## 株式会社丸井グループ

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2022年4月～2023年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 商品原価、外部委託料	● 金額あたり原単位
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● 金額あたり原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● エネルギー別原単位
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 外注輸送金額	● 輸送金額当たり原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物重量	● 重量当たり原単位（リサイクル）
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● 交通費支給当たり原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤交通費支給額	● 交通費支給当たり原単位
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 入店客数・顧客移動距離（商圈）	● 移動手段別人キロ当たり原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 販売したアパレル商品の種類別重量 ● 年間洗濯回数（オリジナルのシナリオ）	● アパレル商品の洗濯・クリーニングに伴う重量 ● 当たり排出量
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 丸井商品、廃棄カード、包装材の重量	● 素材別重量当たり廃棄物原単位
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 株式保有率	● 投資先の公表CO2
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	●

# 4

# 株式会社丸井グループ

## サプライチェーン排出量算定結果

・温室効果ガス排出量構成(2022年度実績)

